

04・二人きりの大浴場で、大股開きさせられてガチクンニでイかされる

トラック03から数分後。

主人公『はちやの湯』女性風呂の浴槽に浸かっている。
浴槽はとても広く、女性風呂には主人公しかいない。
のんびりと過ごせるひと時である。

SE1 錢湯の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【0～20秒ほど流してSE2】

【その後、音量が小さくなる】

【トラック終了まで流し続ける】

20秒ほど、銭湯の環境音のみが続く。

すると……。

ふと遠くで銭湯の入り口が開く音がした。

S E 2 錢湯の扉が開く音

【最初から最後まで流す】

【とても遠くで、かすかに聞こえる】

S E 3 みつみの足音1

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【『とても遠くで、かすかに聞こえる』位置から、3メートル地点ほどまで近づく】

【だんだん近づいてくる】

【▲1 で一度ストップする】

【▲2 で再開し、1メートルほどの距離まで近づく】

【▲3 でストップする】

△主人公△

「……！」

みつみである。

みつみ、少し離れた位置から主人公に話しかける。

▲ ボイス加工あり

〔3メートルほど離れた位置から聞こえる〕

●正面 30センチ

「『このトラックは、すべて主人公に話しかけている。』
にやにやと嬉しそうに。

主人公が浴槽にいるのを発見できたので

あ～……♥ はっけん……♪」

▲1 ここでSE3が一度ストップする。

〈主人公〉

「みつみ姉ちゃん！」

みつみ、だんだん近づいてくる。

▲ ボイス加工あり

【2メートルほど離れた位置から聞こえる】

●正面 30センチ

「にやにやと嬉しそうに。

片手を上げて、主人公に挨拶しながら近づいてくるイメージ
よつ♪」

▲2 ここでSE3が再開する。五秒ほど流して▲3

〈主人公〉

「みつみ姉ちゃんもお風呂？」

あれ？ 早くない？」

主人公、思わず疑問を口にする。

みつみはまだ、家事や、管理がらみの仕事が残っていると思っていたのだが……。

みつみ、だんだん近づいてくる。

▲3 ここでS E 3がストップする。

▲ボイス加工あり

【1メートルほど離れた位置から聞こえる】

●正面 30センチ

【明るく嬉しそうに。】

主人公と過ごせるのが嬉しいので】

仕事、さーっと終わらせてきちやつた♪

一緒に入ろう♥】

△主人公

「うん！」

そういう事なら大歓迎だ。

主人公、大きく頷くと、みつみが浴槽に入つてくる姿を見上げて待つた。

S E 4 みつみが浴槽に入る音
【最初から最後まで流す】

【1メートルほど離れた位置で聞こえる】
【とても小さめの音量で流す】

みつみ、さらに近づいて、50センチほどの距離になる。

▲ボイス加工あり

【50センチほど離れた位置から聞こえる】

●正面 30センチ

「うつとりと気持ちよさそうに。

とてもいいお湯なので」

はあう……いいお湯だねえ。さすが我が銭湯



【主人公に、入浴したタイミングを尋ねる】

さつき来たの?』

△主人公

「うん! ついさつき入ったばかり♪』

みつみ、さらに近づいて、30センチほどの距離になる。

二人、お風呂につかりながら、ゆっくりとした会話を始める。

●正面 30センチ

「きやつきやと嬉しそうに」

あ、なんだ♥ タイミングよかつた♪♥」

〈主人公〉

「りっさんには会えた？ さつき出ていったんだけど……」

主人公、ここで少々気になつて、たずねる。

みつみは、ちょうど出て行つたり津と、今度こそ会えただろうか。

●正面 30センチ

「主人公の質問に答える」

そうそう。入口のところでりっちゃんに会つたよ。

今度は入れ違いにならなかつた♪

【少し間をあけてから。

ちよつと淋しそうに。

以前は皆でゆつくり入浴する事もよくあつたのに、今月は、数人集まる事も難しいので

……最近みんな、ほんと忙しいよね。

ちよつと前までは、全員でゆつくりお風呂入つたりしてたのにさ。

今週は、お風呂どころか、ご飯も揃う方が珍しいし。

十二月だからかな……。

お姉ちゃん、ちよつと淋しいよ』

△主人公△

「……確かに、それはあるかも……」

みつみは律に会えたようだが、それはみつみの淋しさが増す要因にもなつてしまつていったようだ。

最も、お風呂の時間も一人極端にずれる、ご飯時にいられない下宿生の筆頭は主人公でもある。

なので主人公は、内心申し訳なくなりつつも、みつみを励ました。

少なくとも自分は……もう少しすれば、多少は時間ができる。

△主人公△

「でも、もうしばらくすれば、また一緒にゆっくり過ごせるって♪」

●正面 30センチ

「気を取り直した感じで明るく。

主人公の言葉を受けて、気分が明るくなつたので】

……そうだね！

【にやにやと嬉しそうに】

ま、みんなと入れないのは残念でもあるけど。

二人つきりもいいよね……♥

【ちよつとだけわざとらしく尋ねる。

ちらつと鋭い質問を浴びせる感じで。

実は、今回はこれを尋ねようと、急いで作業を終わらせてお風呂に来たので】

みんな大変そうだけど、あなたは特に忙しいし。

今週なんか、土日も短期バイトするんでしょ？】

〔主人公〕

「そ、そ、そ、そうねえ？」

こうしてみつみは元気を取り戻してくれたようだが、今度は別の事が気になるらしい。みつみは『ずいっ』という感じで少し近づくと、主人公の顔を覗き込んで尋ねた。

S E 5 みつみが近づく音
【最初から最後まで流す】

●正面 15センチ

「強めに同意して】

そ、う！

傍（はた）から見たらあなた、働きづめだよ。

【さらに律の存在まで出して、己の主張を強化する】

りつちゃんもあなたの事。

『なんか最近、すつごい大変そう』って言つてたもん。

【ちよつと可愛く拗ねたような、あからさまに訝しがつて いる感じで】

……ねえ。

なうんでそんなにバイトしてるの？』

（主人公）

「ええうつとお……」

主人公、返答に窮する。

実は主人公は今、みつみへのクリスマスプレゼントを購入するためにバイトを頑張っている。

『……でも、給料即手渡し系のアルバイトでもない限り、十二月分の給料が入るのは来月以降ではないか？ そんなにたくさん即手渡しの仕事が見つかったのか？』とツッコミが入りそうだが、その通りだ。

主人公は結局、先月までに目標金額に到達できなかつた。

よつて、両親にお金を借りてプレゼントを買うことになつてしまつている。
しかし、そんなのは情けなさすぎるの……。

一刻も早く完済するため、十二月もアルバイト漬けなのだ。

よつて『はちみつ寮』にいる時間が極端に少ない、というわけである。

S E 6 壊れた蛇口から、勝手に水が出始める音

【最初から最後まで流す】
【繰り返して流す】

【『みつみ』のセリフが自然に流れる中で、自然に音が鳴り出す感じにする】

【最初はとても小さく目立たないが、▲4でそこそこ聞こえるほどの音量になる】

【耳をすませば、最初から蛇口の水の音も聞こえるくらいのイメージでスタートする】

【▲5 ではつきり聞こえるほどの音量になる】

【▲6 でSE10とともにストップする】

●正面 15センチ

【ちよつとかわいく、コミカルな感じで。

真剣に頷く】

うん】

△主人公

「それはあ……」

●正面 15センチ

【ちよつとかわいく、コミカルな感じで。

あからさまに訝しがつて いる感じで 続きを促す】

それはあ？】

しかしこんな事は、当然みつみには言えない。

だから、主人公がなんとか誤魔化そうとしていると……。目をそらした先で、思わぬ事が起きていた。

▲4 ここでS E 6が、そこそこ聞こえるほどの音量になる。

〈主人公〉

「あ！ みつみお姉ちゃん、見て！」

●正面 15センチ

「「ちょっととかわいく、コミカルな感じで。
まるで信じていない。」

『騙そうとしたって、その手には乗らないぞ』と訝しがっている感じで
んん？』

〈主人公〉

「あそこの蛇口！ 水、出たままになつてる！」

そう、少し離れた先の洗い場の一つで、なぜか水があふれてきているのである。

話題そらしという点では助かつたが、このままにしておくわけにはいかない。

話題をそらした者とそらされたものという違いこそあるものの、みつみもきっと同じよう思っているはずだ。

▲5 ここでSE6が、はつきり聞こえるほどの音量になる。

●正面 15センチ

「ちょっと声が低くなる。

素で驚いた感じで。

その後、ポカンとした様子で続ける。

主人公が指さす先を見ると、実際その通りだつたので。

主人公がこの場を誤魔化すために、適当な事を言つたわけではないと理解する

……あ、ほんとだ。

あそこ蛇口。水、出っ放し（でっぱなし）になつてゐる……

みつみ、浴槽から出ると、蛇口のある洗い場へ浮かう。
特にその必要はないのだが、主人公も後に続いた。

S E 7 みつみが浴槽から上がる音

【最初から最後まで流す】

【0—1秒ほどまで流して、S E 8と重ねて流す】

S E 8 主人公が浴槽から上がる音

【最初から最後まで流す】

【S E 7から1秒ほどずれる感じで、重ねて流す】

S E 9 二人が移動する音

【S E 3と同じ音】

【最初から最後まで流す】

△6 〈主人公〉

「誰か止め忘れたのかな？」

△6 ここでS E 6が、蛇口が閉まるとともにストップする。

S E 10 みつみが蛇口を止める音

【最初から最後まで流す】

●正面 30センチ

「ちょっとと考え込みながら話す。

主人公の言う通りかも知れないが、みつみにも思い当たる節があるので】

うーん、そうだねえ。

誰か止め忘れたまま、出てつちやつたのかも。

……でもこの蛇口、古いんだよね……。

もしかしたらちよつと緩んでて、勝手に水出てくるようになつちやつてるかも知れない。
明日にでも業者さんに相談して、付け替えてもらうね】

〈主人公〉

「そつか……。大変だね」

なるほど、そういう事もあるのか。

銭湯の事に詳しくない主人公にはよくわからないが、みつみが思つたよりも落ち着いて
いる辺り、時にはこういう事もあるのかもしれない。

主人公、よくわからないなりに頷いて『では、ひとまず処置した事だし、浴槽に戻るか……』と思つていると……。

●正面 30センチ

「明るく。特に気にしていない感じで。

言葉の通り、こういった事も自分の仕事なので】

ま。こういうのも仕事だからね♪

【さらっと話題を変える。

明るく嬉しそうに思い付きを言い、主人公を驚かせる】

ていうか、せっかく洗い場まで来ちゃった事だし、久しぶりに身体洗つてあげるよ♪】

△主人公

「えっ？」

みつみが思わぬ提案をした。

その上、主人公がまともな返事をする間もなく、みつみはもうその気になつている。

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

●正面 30センチ

「明るく上機嫌で。

今引いたお風呂椅子に座るように促す】

さ。座つて座つて♪」

△主人公

「ええっ？」

S E 1 2 みつみがお風呂椅子を引く音 2

【S E 1 1と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

●正面 30センチ

「【ちょっと可愛く拗ねた感じで。

主人公に『ちよつとくらい時間を作つて』とおねだりする
いいじやん。今日はもう特に用事ないんでしょ?
④つくりしてこうよ』

〈主人公〉

「ない、けど……」

●正面 30センチ

「明るく上機嫌で。
しかし、有無を言わせない感じで
よし♪ じやあおいで♪」

〈主人公〉

「……うん」

かくして、主人公はまたも流された。
よくわからないまま、みつみに身体を洗われる事になってしまった。

S E 1 3 主人公の足音

【最初から最後まで流す】

S E 1 4 主人公がお風呂椅子に腰かける音

【最初から最後まで流す】

ポカンとしている間にもみつみは洗う準備に入つており、主人公の背後に座る。主人公は後ろから洗われる事になる。

●背後 30セント

「明るく上機嫌で」

はういえらい子♥

お仕事頑張つたえらい子の身体は、お姉ちゃんが洗つてあげますからねう♥

〔嬉しそうに楽しげに。〕

こう言つた事をするのは、少々久しぶりなので

ふふつ♥ なんかちよつと久しぶりう♥」

〈主人公〉

「もお～……♥ 恥ずかしいよお～……♥」

●背後 30センチ

「明るく上機嫌で」

恥ずかしい？

え～？ いいじやん♥

誰も見てないんだからさ♥

はい ♥ 始めますよ～……♥

ふふ♥

△主人公

「もお～……♥」

こうして主人公は、洗われ始める。

口では恥ずかしいと言っているものの、もちろん、本当は嬉しい。
人に身体を洗われたり、逆に洗つたりするのは、何とも言えない幸福感がある。

S E 1 5 みつみがボディーソープをプツシュし、泡立てる音

【最初から最後まで流す】

S E 1 6 みつみが主人公の身体を洗う音 1

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【ボイスの邪魔にならない程度に、少し音量を小さくして流す】

【▲7 でストップする】

●背後 30 センチ

「【※しばらく※ 息づかい、あるいは鼻歌のみで表現する。

無言で、だが楽しそうに身体を洗っているイメージ。

時折鼻歌っぽいものが混じる】

ふーう。

はあ……はあ……はあ……。

ふう……♪

ふん、ふん、ふー……ん……♪

はあ……はあ……はあ……。

ふーん……ふん♪

【ここでふと話し出す。

さりげないようで、実はこの話がしたかったので
……でさあ】

△主人公

「うん……？」

だが、ただ幸福に浸つていてもいかないようだ。

みつみはやはり、先ほどの件が気になつていてるらしい。

話を戻そうとしている。

●背後 30センチ

「あくまで、さりげない雰囲気を裝つて。

内心とても気にしてるが、主人公のプライベートを慮つて、優しく。

『さつきの話』とは『アルバイトで随分忙しそうにしているが、その理由は言えないら

しい事】

さつきの話だけど。

別に、言いたくないならいいんだ？

あなたももう大人だし、あなたの時間は、あなたが自由に使うものなんだから」

「主人公」

「……うん」

だが、話が思わぬ方向に転がってきた。

主人公、なんだかみつみにあらぬ誤解をされているような気がして、少々焦る。しかし今の主人公には、その誤解を解く事ができない。

たとえバレバレの気がしても、ネタバレはしたくないからだ。なので、神妙な顔で頷くのにとどめる。

結果として、それが余計にみつみの心配を加速させる事になるのだが……。

●背後 30センチ

「かわいく強調して。

この点に関しては譲れないのいで
で、も！ 困つたら、必ず相談してよ？
わかつた？」

（主人公）

「……うん！」

●背後 30センチ

「上機嫌で。

主人公の了承が得られたので

よろしい♪」

▲7 ここでS E 1 6がストップする。

みつみ、近づいて、首筋にキスする。

●背後 30センチ やや下あたり

「※1回※ キスする。

首筋にキスする】

ちゅ♥』

みつみ、先ほどの位置に戻って話し始める。

主人公は『に、逃げ切ったか?』と内心ドキドキしつつ、素直に好きにされていく。

●背後 30センチ

【上機嫌で】

じやあ今日は♪ 毎日働くあなたに。

元気が出るよう、パワーが沸くように。

みつみお姉ちゃんが一杯綺麗にしてあげるね♪

（主人公）

「！」

だが、好きにされすぎて、またどうにも、えっちな雰囲気になってきた……。

S E 17 みつみがボディーソープを泡立てる音

【最初から最後まで流す】

言うと、みつみ、主人公に密着する。

背後から右耳に向かって『無聲音ささやき』をする。

S E 1 8 みつみが主人公の身体を洗う音2

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【▲8 で一度ストップする】

【▲9 で再開する】

【▲10 でストップする】

●右 0センチ 背後 0センチ 『無声音』ささやき ※マークのセリフまでささやく
「くすくすと嬉しそうに。

身体を主人公の背中にぴったりくっつけて話している

ほく……ら。好きでしょお?

こんな風にいく……くつづいて。

おっぱいで、こんな風に」※

みつみ、少しだけ離れて、主人公の身体を、自分の胸を使って洗う。

●右 15センチ 背後 15センチ

「くすくすと嬉しそうに。

小さく上下に動いて、自分の身体で主人公の身体を洗いながら話しているイメージ
背中洗われるの、大好きだもんね♪…………

ほらあ…………すりすり、すりすり…………



背中に重たうい感じが当たるの、嬉しいもんね♪♪
すりすり、すりすり、すりすり…………



【※しばらく息づかいのみ※】で表現する。

とてもゆっくり、興奮氣味に。

ふざけつとも、身体はちゃんと洗おうと、熱心になつていてるイメージで】

はあ……。はあ……。

はああ……。

……ふう。

はあ、はあ……ふうう……。

はあ、はあ。ふううつ……

【背中から腕に移動する。

二の腕に胸を擦り付けているイメージ。

ちょっと興奮気味で、息が荒い感じで。

主人公に意地悪しているうちに、自分も興奮してきたので。

途中、興奮氣味の呼吸が混じる】

へへへ。

背中。綺麗になつたから、次はこっちく……

♥』

▲8 ここでSE18が一度ストップする。

●右 15センチ 背後 15センチ

「ふふ、腕、ふにふにだく……。

気持ちいいね……♥」

▲9 ここでSE18が再開する。

●右 15センチ 背後 15センチ

「〔※6回※ 呼吸する。

とてもゆっくり、興奮氣味に。

ふざけつつも、身体はちゃんと洗おうと、熱心になつて いるイメージで】

はあ。はあ。はあ。

はー。はー。ふう……

♥

【ちょっと興奮気味で、息が荒い感じで。

主人公に意地悪しているうちに、自分も興奮してきたので】

右の手は、私の、お胸で。

左の手は、私の手で。

【※5回※ 呼吸する。

とてもゆっくり、興奮気味に。

ふざけつつも、身体はちゃんと洗おうと、熱心になつているイメージで】

はあ。はあ。……はあ。

はあつ。はあ……。

洗つてあげるね♪……



みつみ、ここで、主人公の上半身を洗い終える。

▲10 ここでSE18がストップする。

●右 15センチ 背後 15センチ

【ちょっと興奮気味で、息が荒い感じで。

主人公に意地悪しているうちに、自分も興奮してきたので】

はああつ……
♥

綺麗になつたね♪……
じやうあ……
。

あつたかいお湯で長そうね♪……
♥

—

S E 1 9 みつみが主人公の身体の泡を流す音

【最初から最後まで流す】

みつみ、ここで、主人公の上半身の泡を流し終える。

主人公、これで洗われるのも終わりだろか、このまま後はお互い自分の髪や身体を洗つて出るのだろうかと、ほつとしたような、残念なような気持ちに襲われる。
だが……。

●右 15センチ 背後 15センチ

「ちょっとわざとらしく。

いかにも『今氣づきました』といつたていを装う。

主人公の身体を、上半身しか洗つていなかつた事について述べる。
実際は勿論、わざとやつている】

ああ～……そうだ。

下の方、洗うの忘れてたね～……
よお～し……
泡も流れだし……。

次は、こつちを洗つてあげなくつちやね
じやあ。こつち向いて、お股、ひらこつか

～

（主人公）

「ええええつ？」

みつみはやはり、これで終わる気はなかつたようだ。

主人公はまた困惑しているふりをして、積極的に流されていく。

● 右 15センチ 背後 15センチ

「優しく嬉しそうに。

でも有無を言わせない感じで」

いいの♥ いいじやん。

しょお？」

言うと、みつみ、主人公に密着する。

背後から右耳に向かって『無聲音ささやき』をする。

●右 0センチ 背後 0センチ 『無聲音』ささやき ※マークのセリフまでささやく
「ひそひそと、優しく。

凶星をついて、ダメ押しする感じで】

だつて。もうお……♥

濡れちゃって来てるんでしょう……?」※

〈主人公〉

「……つ♥」

みつみ、今度は同じ『右 0センチ 背後0センチ』の位置のまま話しかける。

●右 0センチ 背後 0センチ

「優しい声で、でもちよつと意地悪に。

ちよつとだけ言葉攻めっぽくなる】

ほら♥ やっぱりそうだ……♥

身体洗われるの気持ちよくて。

もつと気持ちいいのしたくなっちゃったんだよね♥』

みつみ同じ『右 0センチ 背後 0センチ 背後0センチ』の位置のまま『無聲音ささやき』をする。

●右 0センチ 背後 0センチ 『無聲音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「ひそひそと、優しく。

そっと誘う感じで】

ほら、足開いて？

べろべろされるの好きでしょ？

お股べろべろされて、一日の疲れ取って。

一杯樂うになっちゃお？

ね……？」※

SE20 主人公がみつみの方を向いて、足を開く音

【最初から最後まで流す】

【とても小さな音量で流す】

SE21 みつみが移動する音

【最初から最後まで流す】

【後ろから、正面に移動して、股間のあたりで止まる感じで流す】

こうして足を開けば、あとは夕方とおおむね同じ事が起きるだけだ。

主人公はまた犯される。

みつみは主人公の股間の前にしゃがみこみ、『正面 30センチ 下50センチ』の位置で話しかける。

●正面 30センチ 下 50センチ

「優しい声で、でもちよつと意地悪に。

ちよつとだけ言葉攻めっぽくなる。

主人公の股間を見つめながら話している感じで】

んふふ。かわい〜……♥

みんなと使うお風呂なのに、お股広げてえっちする格好になっちゃったね♥
やつぱりしたかつたんだねえ。

いつもこれされると、すぐイっちゃうもんね……♥

沢山ぺろぺろしてあげるからね……♥

みつみ、主人公の股間に顔をうずめ『正面 15センチ 下50センチ』の位置で舐め始める。

●正面 15センチ 下 50センチ

「【※しばらく※ 舐める。

まずは軽めに、舐め始め程度】

んんっふ……れーろつ……

れろれろ、れーろ……

【舐めながら話す。

『ほら、もういい顔してる』と言っている。

『いい顔』とは『感じていて気持ちよくなっている顔』という意味】

ほひや…… ♪ ほお、ひいかほひてふ……♪

【※しばらく※ 舐める。

しつかり舐め始める。

だが、まだあまり激しくはない。

主人公の様子を見ながら、丁寧に舐めている感じで】
んんつく、んつふ。

れーろ、れーろ、れーろ……。

じゅるっ♥

えれれれ……ちゅるつ♥

んつく……んつふ……ぺろつ♥

【※息づかいのみ※ で表現する。

鼻で呼吸する。

ゆっくり、少し苦しそうに。

主人公の股間に口を付けたまま呼吸している感じで】

んーふーつ……。

んーふうつ……。 んーふうつ……♥

【※しばらく※ 舐める。

舐めを再開して、

ゆっくり、べろべろ丁寧に舐めている感じで。

途中で股間へのキスを交える】

んつく……れーろ……れーろ……れーろ……ちゅ
♥

【※しばらく※ 舐める。

舐め方に緩急をつけていく。

今度はぴちやぴちや音を立てて、やや早めに舐める感じで。

【途中で股間へのキスを交える】

れろれろれろれろ……ぴちやつ



れーろ、れーろ、れーろ、ぴちゅつ



ちゅつぱあ……えれえれえれ……ぺろつ



【鼻で呼吸しながら舐める。

ゆっくり、少し苦しそうに。

主人公の股間に口を付けたまま呼吸している感じで】

んー……ふーつ……。

ぴちゅ。

んんう……ふー……



れろつ



んんー……ふううう……



【※しばらく※ 舐める。

舐めを再開して、

しつかり音を立てて激しめに。

音でもさらに主人公の興奮を煽っていく感じで。

途中で股間へのキスを交える】

ぺろぺろ……ぺろぺろ……じゅるつ



ずるるるつ、ずろつ、ちゅるるるつ♥

れーろれーろ、ちゅるつ。じゅるるるるつ♥

【※息づかいのみ※】で表現する。

鼻で呼吸する。

早く、少し苦しそうに。

主人公の股間に口を付けたまま呼吸している感じで
んーふーっ、んーふーっ、んんふうつ……♥

【舐めながら話す。

『気持ちいいねえ』と言っている】

ひもひひいへえ……♥

【※しばらく※】舐める。

ゆつくりめからだんだん早く。

音でもさらに主人公の興奮を煽っていく感じで。

途中で股間へのキスを交える】
んつく……。

れーろ……れーろ。

れーろ、れーろお……ちゅ♥

れろれろれろれろ……ちゅるつ♥

【※しばらく※ 犊める。

しつかり音を立てて激しめに。

音でもさらに主人公の興奮を煽つていく感じで。

途中で股間へのキスを交える】

じゅろじゅろ、ずろずろ、ずるるるつ♥

じゅるじゅる、じゅるじゅる、じゅるるるうつ♥

べろおおつ ♥

【※息づかいのみ※ で表現する。

鼻で呼吸する。

早く、少し苦しそうに。

主人公の股間に口を付けたまま呼吸している感じで】

はーふう、はーふう、はーふうつ……♥

【大きく舐め上げて、一旦口を離す】

べろおおつ ♥

【※舌を出した状態で※ 話す。

自分の唾液と主人公の愛液がまじりあつたものを舌の上に乗せて、主人公に見せつけている。

それぞれ『ほら、見てえ？』

『こんなにあふれてきてるよ』

『いつでもいつていいからね』と言っている。

途中で股間へのキスを交える】

ほらあ……みへえ……?

こんひやに……あふれへきへるよ……♥

ちゅ♥

いふれもいつふえ、ひいからへ♥

【※しばらく※ 犬める。

鼻で呼吸しながら。

しつかり音を立てて激しめに。

ペースを上げて、いよいよ本気でイかせにかかる感じで】

んんんうつ……ふーつ♥

ふーつ……じゅるつ、じゅるるるつ、じゅるつ♥

んーふーつ……んーふーつ……♥

れろれろれろれろれろ……じゅるう♥

れーろれーろ、れーろれーろ。

じゅるじゅる、じゅるじゅる、じゅるじゅる♥

れーろれーろ、れろれろれろ、じゅるつ♥

んーふーつ、んーふーつ、んんふう♥』

△主人公

「……あつ♥ あつ♥ あつ♥

みつみ姉ちゃん、わたしつ……♥」

みつみ、主人公の絶頂が近いのを理解して、さらにペースを早める。
忙しい理由。それすら話せない主人公に、みつみはちょっと甘すぎる。

●正面 15センチ 下 50センチ

「※しばらく※ 犊める。

鼻で呼吸しながら。

ラストスパート。

しつかり音を立てて激しめに】

んんつふ……れーろつ……♥

んんつふ……れーろつ……♥

じゅるるるるるつ、じゅーるつ

じゅるるる、じゅるつ♥

ずぞつ、ずぞつ、ずぞぞつ



【苦しそうに呼吸しながら。

ラストスパート。

主人公の反応が激しくなってきたので、主人公の身体を押さえつけながら舐めている

んんつふ、んつ。んつ、んー



んんんんつ、んつ



んん、んう、んー



ふーつ……



【※ここで主人公が絶頂する※

ちよつと激しく、絶頂ポイントなのがわかりやすい感じで】

んんんんうつ……



〈主人公〉

「……ああああつ……



主人公、絶頂する。

みつみ、唇を股間から離して主人公を見上げる。

まるでイキたての主人公を見る事が、何よりの楽しみかのように。

●正面 15センチ 下 50センチ

「〔※12回※ 呼吸する。」

苦しそうな呼吸。

激しく荒い呼吸から、だんだんゆっくりになつていつて、落ち着く

はーっ ♡ はーっ ♡ はーっ ♡ はーっ ♡

はーっ、はーっ、はーっ、はーっ、はーっ、

はーっ、はーっ、はーっ、はーっ、はーっ、

【少しまだ苦しそうに、だが満足げに微笑む。

主人公が自分の口で絶頂したので】

ふふ……♪

いーっぱいっ……気持ちよくなれたね…… ♡

〔※1回※ キスする。」

股間にキスする】

ちゅ ♡ 』

ここでフェードアウトして終了。